

## 差別的預金準備率

田中 修

はじめに

本稿では、差別的な預金準備率引上げを解説する。

10月11日、人民銀行は工商銀行、農業銀行、中国銀行、建設銀行の4大国有商業銀行、及び招商銀行、民生銀行の株式制商業銀行2行に対し、預金準備率を0.5ポイント引き上げ17.5%とすることを通知し、この週のうちに預け入れるよう要求した。市場関係者は、この措置は短期的なものであり、2ヶ月前後と予想している（京華時報2010年10月12日）。

この6行の預金額は約38.1兆元であり、預金総額68.6兆元の半分を占める。今回の措置による流動性回収額は2800 - 3000億元前後と予想されている（南方日報2010年10月12日）。

この措置の背景としては、次の点が指摘されている。

### (1) 9月の貸出急増

消息通によると、9月の4大国有商業銀行の新規貸出増は2000億元余りであり、株式制銀行9行の新規貸出増は1020億元、そのうち、招商銀行は230億元、民生銀行は380億元である。

中央銀行は今年の貸出の適度な伸びをずっと強調しており、9月の新規貸出増を2800億元前後に抑える予定であった。しかし、市場の予想では9月の新規貸出増は5000億元前後となり、監督部門の考える貸出規模・テンポを大きく超えている<sup>1</sup>。このため、6行を選択し、差別的預金準備率を用いてこの6行に警告を与えているのである（中国証券報2010年10月12日）。

### (2) 流動性の抑制とインフレ抑制（京華時報2010年10月12日）

メリル・リンチ証券 陸挺エコノミスト

9月のPMI（製造業購入経理指数）は高まっており、需要と市場のコンフィデンスが反転上昇していることを示している。人民元の切上げ期待は、ホットマネーの流入を引き起こしており、同時に、政府は不動産業の投機を抑制する必要がある。預金準備率の引上げは、「財政緩和、金融引締め」という市場の政策予想と符合するものである。短期内には利上げの可能性は大きくないと思う。

交通国際銀行 李珊珊業種アナリスト

人民元切上げ期待が引き続き強まっており、外貨交換による人民元放出が不断に増加傾向にあり、10月の中央銀行手形の満期到来が大量であること<sup>2</sup>等が、中央銀行が今回の拳に

<sup>1</sup> 南方日報2010年10月12日は、9月の新規貸出増を6500 - 7000億元前後と予想している。

<sup>2</sup> 中国証券報2010年10月12日によれば、5720億元である。

出た原因である。この措置は臨時的なものであり、期間は2 - 3 ヶ月維持されるのではない。現在、利上げの可能性は大きくないが、この政策が打ち出されて以後、利上げの可能性は更に小さくなった。

興業銀行 魯政委エコノミスト

中央銀行がこの拳に出たのは、経済データと関係があり、その意図はインフレの抑制である。8月のデータは好転を示しており、9月のデータは引き続き好転しているものと予想される。このような状況下、政策の風向きは、経済成長の下降防止からインフレ抑制に転換している。

中央財経大学中国銀行業研究センター 郭田勇主任

中央銀行のこの拳の意図は、インフレの抑制である。もし、将来インフレ状況が有効に抑制できず、マイナス金利の状況が少しも改善できないならば、利上げの可能性も排除できない。

社会科学院金融研究所金融市場研究室 曹紅輝主任

今回の6行に対する預金準備率引上げは、貸出の収縮が目的であり、臨時的な行為で、利上げの前奏ではない。合理的な利上げの時点は、2010年末から2011年初であり、しかも非対称的な利上げの可能性が大きい。預金金利の引上げは銀行の利鞘の縮小をもたらし、銀行の営利を阻むことになるので、利上げをするならば最も可能性のあるのは貸出金利のみの引上げである。

(10月15日記)